

制作の目的と改訂ポイント

(1) 制作の目的

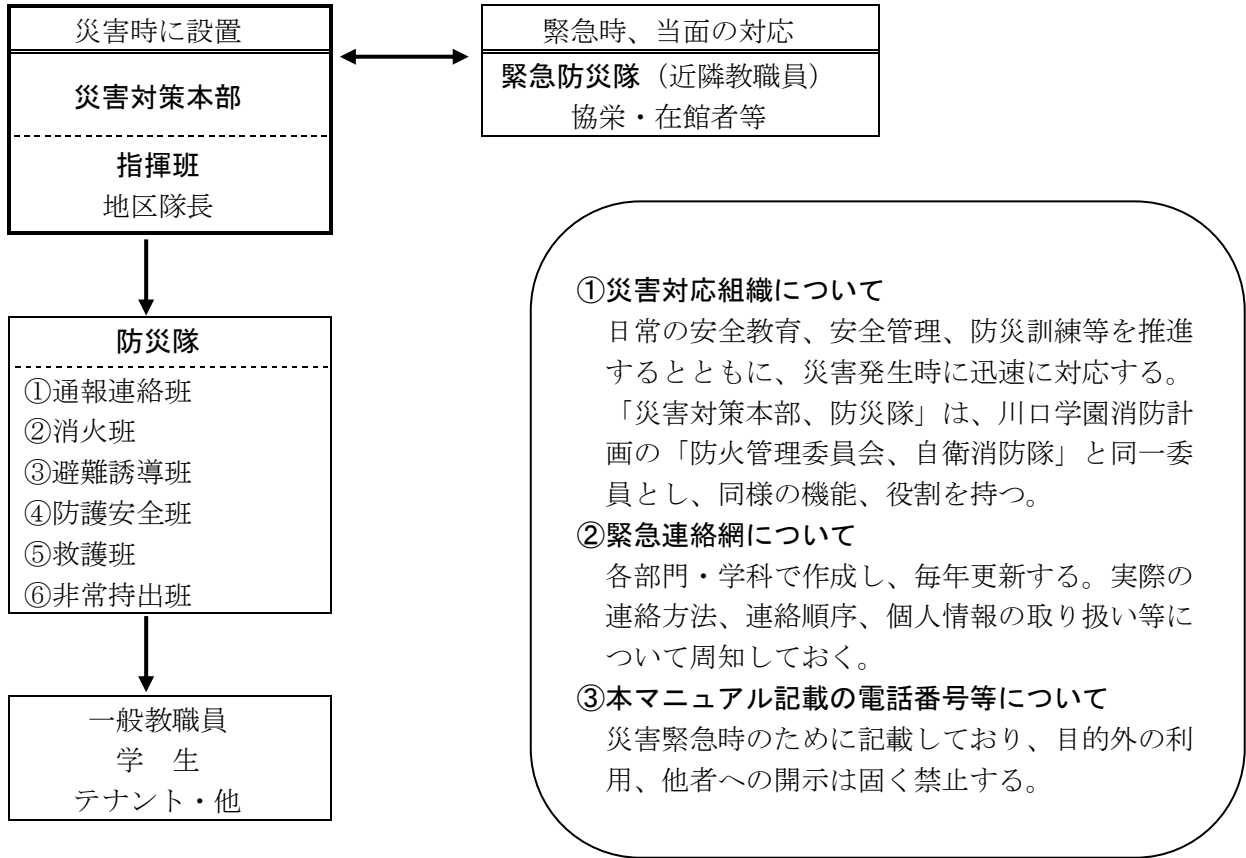
- ①平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、校舎・設備への被害は少なかったものの、電車運休による多数の帰宅困難者の発生、教職員及び基金訓練生等の当日学内宿泊、広範囲の計画停電と迂回出勤、卒業式の直前中止など、リアルな体験の連続であった。
- ②災害発生時は、迅速で臨機応変な対応が求められる。大震災の教訓を生かし、本校施設の特徴を踏まえた「地震・火災対応マニュアル（高田馬場編）」を新たに制作した。
- ③このマニュアルには基本的な初動対応をまとめている。日頃の防災活動、そして万一の災害に備えて十分な活用をお願いしたい。

(2) 改訂ポイント

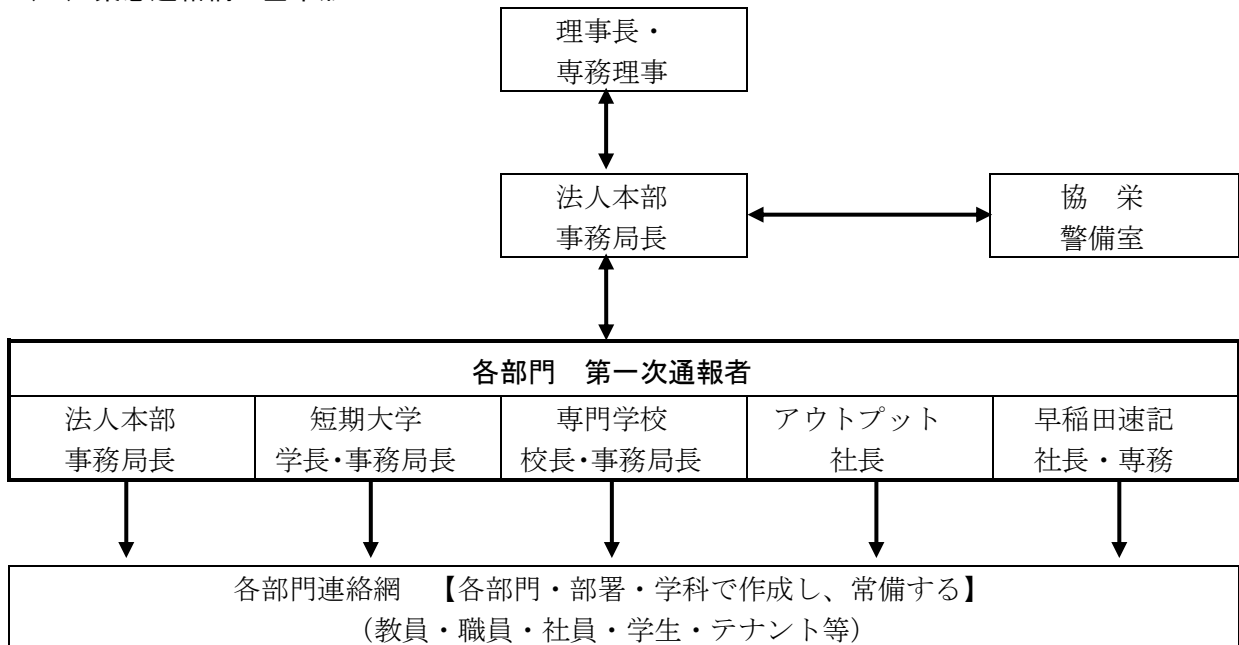
- ①マニュアル全体
既存の川口学園災害時対応マニュアル(平成 9 年作成)、消防計画(平成 15 年改正)、災害対策本部(平成 21 年更新)を統合整理し、大震災を経験した兵庫県教育委員会、仙台市立住吉台中学校等の対応マニュアルも参考とした。
- ②災害対応組織と緊急連絡網
各部門の緊急連絡網は、別途、各部門、学科等で作成、常備、更新する。個人情報取扱いの観点から、このマニュアル本文には添付しないこととした。
- ③災害対策本部
災害レベル別に「警戒、本部、全員、緊急」体制に区分し、教職員非常配備体制を新たに設定した。
指揮班を防災隊から災害対策本部に統合強化し、各班の持参品を新たに記載した。
災害対策本部、防災隊、緊急防災隊の委員と役割を明確にした。行政等を含めた関係連絡先をまとめ直した。
- ④地震発生時の基本的対応
地震発生時の初動対応、発生後から学校再開までを教職員在校時、不在時別に整理した。
- ⑤東海地震の警戒宣言
気象庁が平成 23 年 3 月 24 日から運用開始した内容に基づいてまとめ直した。
- ⑥災害時の機械設備機能・宿泊・近隣対応
NKビル固有の機械設備、警備体制を踏まえ、停電、宿泊、近隣等への対応、建物の潜在能力の活用と限界を新たにまとめた。
- ⑦各種対応チェックリスト
チェックリストをそのまま拡大コピー、またはホワイトボードに書き出して活用できるように基本項目をまとめた。災害用装備・備蓄品を充実させ、設置場所を明記した。
- ⑧火災発生時の基本的対応と自衛消防組織
火災発生時の初動対応、防火管理者、防火担当責任者、火元責任者を再整理した。
- ⑨報道機関対応マニュアル
報道関係への対応について新たに記載した。
- ⑩参考資料・図版
最新情報に更新した。

災害対応組織と緊急連絡網

(1) 災害対応組織の概要



(2) 緊急連絡網の基本形



災害対策本部

(1) 災害対策本部の設置基準

- ①災害の種類や被害状況を判断し、災害対策本部が体制区分を決定する。
- ②災害発生時間、在館者の状況により、下表によらない非常配備体制を指示することがある。
- ③勤務時間外・夜間・休日等に出勤する場合は、家族の安全を確保した後、自らの安全に十分配慮しながら集合する。

体制区分	災害レベル別 招集基準	教職員 非常配備体制
(レベル1) 警戒体制	■情報収集と対応の必要性を検討する。 ①東京で震度4以上の地震が発生したとき ②大雨、洪水、暴風、大雪等により、通勤・通学・安全に対応が必要と判断されるとき	災害対策本部委員
(レベル2) 本部体制	■災害対策本部を設置し、役職者を中心に対応する。 ①東海地震の警戒宣言が発令されたとき ②東京で震度5弱、及び5強の地震が発生したとき ③大雨、洪水、暴風、大雪等により、災害が発生し、更に拡大する恐れがあるとき	災害対策本部委員 ＋ 課長、学科長以上
(レベル3) 全員体制	■災害対策本部を設置し、全教職員で対応する。 ①東京で震度6弱以上の地震が発生したとき ②大雨、洪水、暴風、大雪等により、大規模な災害が発生したとき 【勤務時間内・在校中】 ①災害対策本部の指示により、全教職員が災害対策業務に従事する。 【勤務時間外・夜間・休日等】 ①震度6弱以上の地震発生により、災害対策本部が学園内に自動的に設置されるものとする。	災害対策本部委員 ＋ 全教職員
(レベル4) 緊急体制	■緊急防災隊が対応する。 ①全員体制時に、学園内に災害対策本部が設置できない場合、学園近隣の教職員で組織する緊急防災隊が当面の事態に対応する。	緊急防災隊

(2) 災害対策本部の委員構成

役職等	①警戒体制	②本部体制	③全員体制	④緊急体制
理事長・専務理事	●	●	●	
学長・校長・事務局長	●	●	●	
副校長・次長	●	●	●	
学科長・課長・室長		●	●	
一般教職員			●	
緊急防災隊（指名）				●
協 栄	連携	連携	連携	連携
セコム・行政	連携	連携	連携	連携

(3) 災害対策本部の役割分担

●災害対策本部（火災の場合＝防火管理委員会） ◎＝班長、○＝担当者		
担当名	業務内容	持参品
災害対策本部 ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	①災害対策本部の設置 （専門学校学務課、火災の場合は玄関前） ②決定事項の地区隊長への指示 ③学生・教職員等の安全対策、被災状況の確認 ④行政・消防等の情報収集及び情報提供、連携 ⑤鉄道・道路状況の確認 ⑥その他、指揮統制上必要な事項	対応マニュアル、施設配置図、マスターキー、教職員名簿、学生名簿、ラジオ、ハンドマイク、懐中電灯、バール、のこぎり、災害用備蓄品
指揮班（地区隊長） ◎ ○ ○	①災害対策本部の実動隊 ②災害対策本部の指示を各班に伝達、実施 ③各班からの状況報告を確認	

指揮命令・情報伝達

状況報告（各班の班長）

●防災隊（火災の場合＝自衛消防隊） ◎＝班長、○＝担当者		
担当名	業務内容	持参品
通報連絡班 ◎ ○ ○	①出火・災害状況の確認 ②消防署への通報（火災発生時） ③校内への非常放送 ④情報収集	対応マニュアル
消火班 ◎ ○	①消火器をもって出火場所へ急行 ②初期消火活動 ③消防隊との連携協力	消火器、ヘルメット、懐中電灯、施設配置図、
避難誘導班 ◎ ○ ○ ○	①避難命令の伝達、指示、誘導 ②非常口の開放、非常階段の確保 ③避難上障害となる物品の除去 ④担当フロアの防火扉閉鎖及びその確認 ⑤人員点呼及び未避難者、救助者等の確認 ⑥第1避難場所、第2避難場所の場所確認	出席簿 ハンドマイク、懐中電灯
防護安全班 ◎ ○ ○	①火気使用器具の使用停止 ②排煙等の措置 ③非常電源の確保 ④表示盤で防火扉の閉鎖を確認 ⑤コンピュータの防護	立入禁止標識
救護班 ◎保健室 ○ ○	①救護所を設置（災害対策本部、玄関等） ②負傷者の応急措置 ③負傷者の所属、氏名、負傷程度等の記録 ④救急隊との連携協力	応急手当の備品、担架、毛布、水、AED
非常持出班 ◎各部門長 ○	①重要書類、保管金庫、印鑑等の搬出と管理	非常持ち出し袋

(4) 災害対策本部委員及び関係連絡先

- ①東海地震警戒宣言時、及び震度5以上の地震が発生したときに状況を判断し、理事長、専務理事、または法人本部事務局長が招集する。
- ②災害の状況により、短期大学委員と連携して活動をする。

【災害対策本部】

氏名（役職）	連絡先	最寄り駅・経路	備考
(理事長)	自宅) 携帯)		本部長 管理権原者
(専務理事)	自宅) 携帯)		副本部長 施設管理責任者
(専門学校事務局長)	自宅) 携帯)		防火管理者
(法人本部事務局長)	自宅) 携帯)		地区隊長 (地下1階～1階)
(専門学校校長)	自宅) 携帯)		
(専門学校副校長)	自宅) 携帯)		
(専門学校学務課長)	自宅) 携帯)		地区隊長 (2階～5階)
(アウトプット社長)	自宅) 携帯)		地区隊長 (6階～8階)
(早稲田速記専務)	自宅) 携帯)		
(株式会社 協栄)	自宅) 携帯)		川口学園営業所 総括責任者

【短期大学連携】

氏名（役職）	連絡先	最寄り駅・経路	備考
(短期大学学長)	自宅) 携帯)		短期大学委員長 管理権原者
(短期大学事務局長)	自宅) 携帯)		短期大学 施設管理責任者
(短期大学事務局次長)	自宅) 携帯)		短期大学 防火管理者

【関係連絡先】

連絡先	電話番号	F A X	携帯(常備)
法人本部	03-3200-6504	03-3200-8065	
専門学校	03-3208-8461	03-3209-6454	
アウトプット	03-3232-1200	03-3232-0255	
早稲田速記	03-3200-8671	03-3200-8673	
協栄（高田馬場・警備室）	03-3204-9981	03-3204-9981	

協栄（日本橋・本社）	03-3666-3251	03-3667-8046	
豊島区（文化商工部私学G）	03-3981-1188	03-3981-3069	
豊島消防署（目白出張所）	03-3989-0119		
目白警察署	03-3987-0110		
高田馬場病院	03-3971-5114	03-3971-1614	
埼玉女子短期大学	042-986-1616	042-986-1518	
協栄（短大・警備室）	042-985-7709		
協栄（埼玉支店）	04-2928-7921	04-2928-7923	

（５）緊急防災隊の編成

- ①災害対策本部委員が学校に集合できない場合、緊急に編成される部隊である。
- ②委員は徒歩、自転車、バイク等で集合できる者等、本校より半径約10kmの範囲に自宅がある者を選任した。
- ③災害対策本部に準じ、集合した者で役割分担を決定し、当面の事態に対応する。

氏名（役職）	最寄り駅・経路	自宅住所	備考
（専務理事）			
（専門学校事務局長）			
（専門学校学務課）			
（専門学校学務課）			
（専門学校学科長）			
（専門学校教員）			
（法人本部経理課長）			
（法人本部経理課）			
（アウトプット）			

地震発生時の基本的対応

(1) 初動対応マニュアル

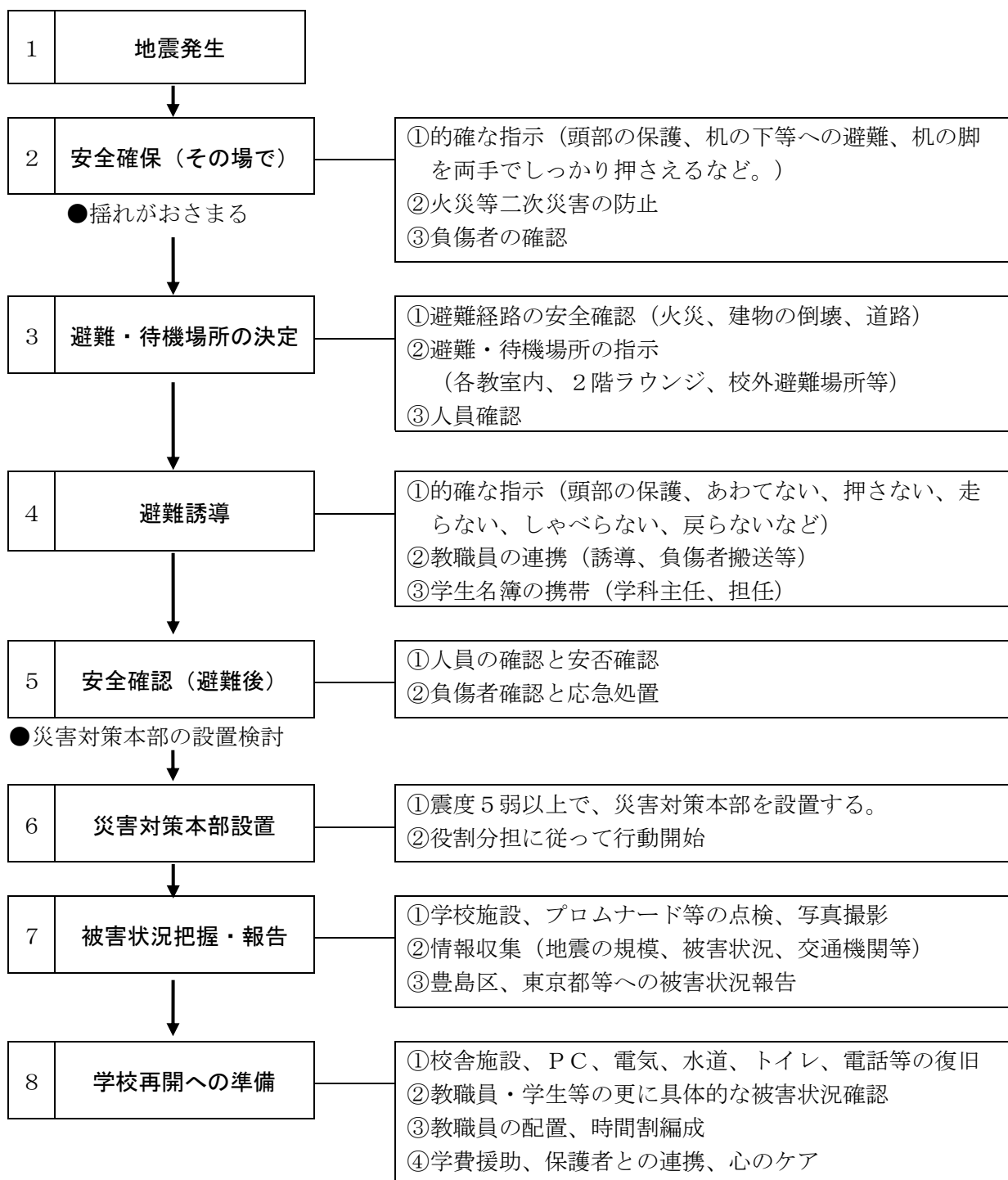
①教職員の対応

項 目	内 容	担当者
地震発生 安全確保	①地震発生時は頭部の保護、机の下等への避難など、まず、各自の身の安全を図る。 ②揺れがおさまるまで、その場で待機する。	各自
地震規模確認	①テレビ、ラジオ、インターネット等により、地震の規模、被害の程度を確認する。	各部署
学内被害確認	①けが人の有無、備品の転倒、落下、破損の確認。 ②エレベータの閉じ込め確認、使用禁止張り紙。 ③トイレの閉じ込め確認。 ④玄関と裏口の解放。 ⑤現場確認後、専門学校事務局長へ報告する。	動ける者が2～3名 で素早く行動する。
非常用放送	①状況に対応した非常全館放送を指示する。 (学生への対応参照)	専門学校事務局長
館内待機・宿泊	①待機場所を決め、スペースを整理する。 ②備蓄品の準備、食糧の買出し。 ③水、乾パン等の配付。(落ち着かせる効果あり) ④帰宅者、待機者、宿泊者の人数掌握。	災害対策本部
全体管理	①状況はホワイトボードに書き出す。 ②以降、マニュアル、チェックリストを活用する。	災害対策本部

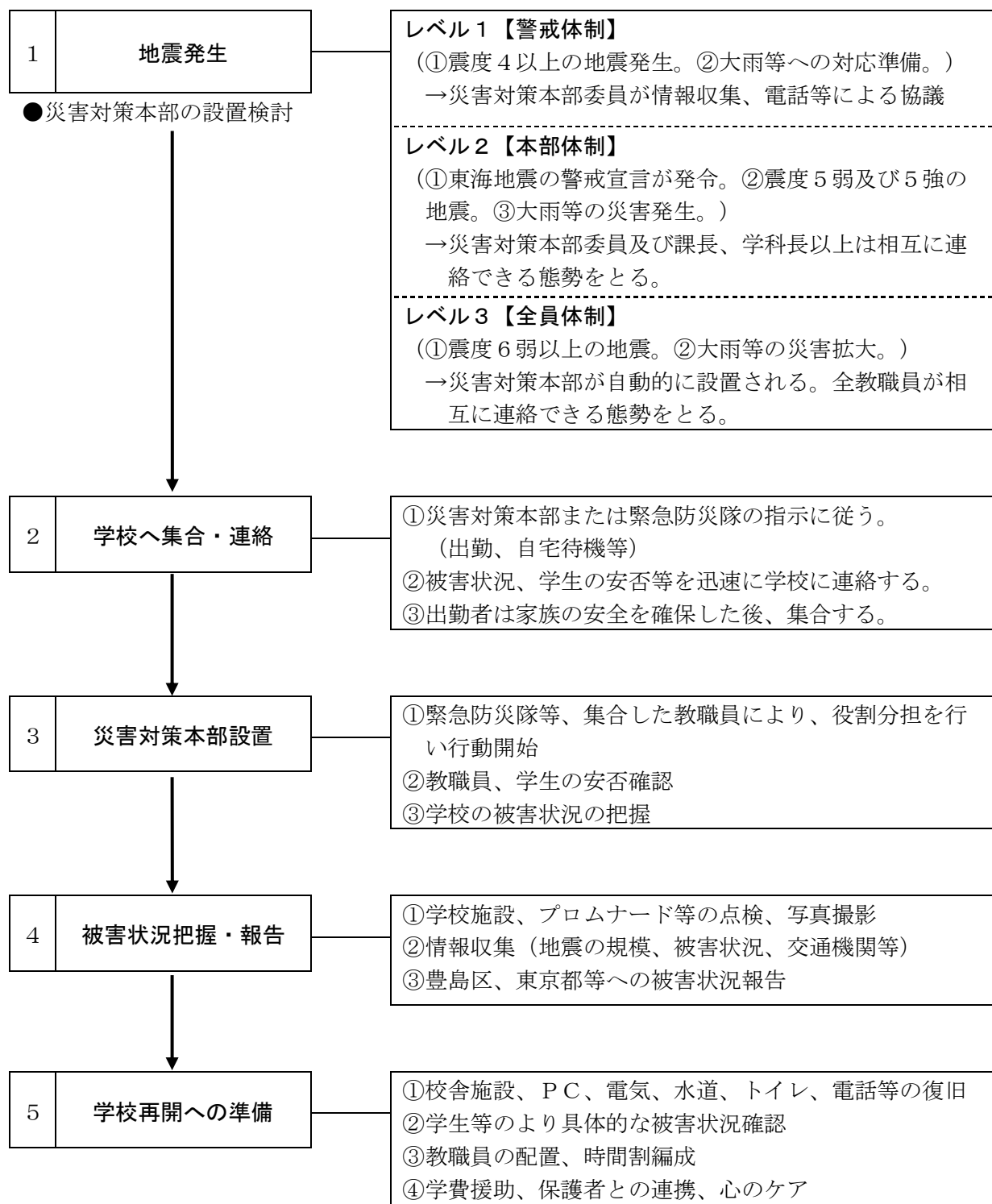
②学生・来館者への対応

項 目	内 容	担当者
地震発生 (授業中)	①「机の下に隠れてください。揺れの収まるまで、待機してください。この建物は耐震構造で安全です。」	教室の教員
非常用放送①	①「ただいま地震が発生しました。震度〇、震源は〇〇です。この建物は耐震構造で安全です。」 ②「学生は貴重品を持ち、教職員の指示があるまで、身の安全を確保して待機してください。」	放送担当者 (2回繰り返す)
非常用放送② (避難する)	①「教職員は、学生の避難・誘導を開始してください。避難先は〇〇です。避難は教職員の指示に従い、クラスごとにまとまって行動してください。エレベータは使用しないでください。」	放送担当者 (2回繰り返す)
(避難しない)	②「地震がおさまりました。このまま授業を続けます。」	
避難誘導	①放送、避難誘導担当者の指示に従い、出席簿、貴重品を持ち、授業担当学生の避難誘導を行う ②各授業担当者は本部に避難人数を報告する。 ③以降、災害対策本部の指示に従う。	教室の教員 避難誘導班

(2)勤務時間内・在校時の対応手順



(3) 勤務時間外・夜間・休日等の対応手順



東海地震の警戒宣言

(1) 東海地震の情報発表

	項目	具体的な実施内容
1	気象庁が発表する情報の種類	①「調査情報」「注意情報」「予知情報」の3種類がある。 ②東海地震が発生しそうだと判断された場合には、「予知情報」が発表され、内閣総理大臣が「警戒宣言」を発令する。
2	警戒宣言が発令された場合	①内閣総理大臣がラジオやテレビを通じて『間もなく（2～3日以内等）地震が発生します。それぞれの立場で防災の準備をしてください』などと呼びかかる。 ②区役所や警察は防災行政無線のサイレン、パトカー、広報車などで周知する。

(2) 教職員の初期対応

	項目	具体的な実施内容
1	非常用放送① (注意情報)	①「ただいま東海地震注意情報が発表されました。地震が発生するかどうかはわかりません。詳しい情報が入り次第お知らせします。」
	非常用放送② (警戒宣言)	①「本日〇時〇分、東海地震についての警戒宣言が発令されました。ただいまから〇〇以内に〇〇を中心とする地震が発生する恐れがあるとのことです。本日の(授業)は中止します。今後の行動については教職員の指示に従ってください。」
2	周知連絡 学内掲示	①緊急連絡網による連絡、ホームページ掲載 ②掲示例「警戒宣言発令中」「帰宅などの指示」「避難先は〇〇」「今後の授業は〇〇」「エレベーター使用禁止」
3	食糧等買い出し 備品準備	①食糧品、飲料水、救護品、ホワイトボード、テレビ、ラジオ、軍手、非常持ち出し品、装備・備蓄品の活用
4	施設対応	①ガスの元栓閉め、落下危険物の防護・除去、消火器・備蓄品の点検、ガラスの飛散防止 ②入り口・プロムナード・裏口・駐車場閉鎖、エレベーター停止
5	教職員の勤務	①発令当日は、授業以外の業務は原則として平常どおり継続する。 ②出勤途上者は出勤する。 ③翌日以降の勤務は、災害対策本部の指示に従う。

(3) 学生への対応

発表レベル	登下校時	在校時	休校の措置
①調査情報 【変化を観測】	平常どおり	平常どおり	平常どおり
②注意情報 【判定会を開催】	帰宅し、自宅で待機する。	速やかに帰宅する。	授業等は原則、中止または延期とする。
③予知情報 【警戒宣言を発令】	速やかに帰宅する。 状況により、距離の近いほうに行く。	速やかに帰宅する。 下校が不可能な場合は学内に待機する。	授業等は中止または延期とする。

災害時の機械設備機能・宿泊・近隣対応

(1) 機械設備・消防設備等の機能

	項 目	具体的な実施内容
1	自動火災報知機	①感知器は 166 か所、非常警報スピーカーは 117 か所に設置している。 (単独バッテリー内蔵) なお、スプリンクラーは設置されていない。
2	非常用放送設備	①地下警備室と 2 階教員室に設置されている。 ②状況に応じて、「係員が確認中…」 「避難してください…」等、マイクで放送する。(単独バッテリー内蔵)
3	誘導灯	①誘導灯は 55 か所に設置している。停電の場合も点灯している。 (単独バッテリー内蔵)
4	防火戸 防火シャッター	①防火戸は各階合計 10 か所、防火シャッターは 1 階東側窓面に 1 か所設置している。 ②煙を感知すると自動的に締まる。手で押すと開けることができる。 ③防火戸が閉じると、普段見慣れた廊下の景色がかなり変わるので、注意が必要である。
5	排煙設備①	①排煙口解放装置が各階に設置されている。アクリル板を破りハンドルを引くと、機械により強制的に排煙される。
	排煙設備②	②各室にある排煙換気窓開閉装置のボタンを押すと、窓上の自然換気窓が開く。手動式。火災時以外は使用しないこと。
6	消火器	①粉末小型消火器 24 個、強化液消火器 9 個、粉末大型消火器 1 個が館内各所に設置されている。誰でも使用できるようにしておくこと。
7	屋内消火栓	①各階、合計 17 か所に設置されている。 ②ホースを延し、放射ノズルを構えてからバルブを開く。 ③火災報知機(発信機) ボタンを押すと、水圧がかかる仕組みである。火災報知機ボタンを押さないとバルブを開けても、水は出ない。
8	連結送水管 連結散水設備	①地下入口に連結送水管 3 個(3 階より上階用)、連結散水設備 2 個(地下散水栓用)が設置されている。 ②消防隊が使用する設備で、ポンプ車を連結し、加圧した消火用水を館内の放水口に送る。
9	自家発電装置	①消火栓ポンプ専用である。停電時に約 20 秒で起動し、約 5 時間発電できる。
	蓄電設備	①非常灯専用である。停電時に約 20 分間、非常灯(各室に 1 本程度、及び廊下に数本設置)が点灯する。
	停電時	①自家発電装置、蓄電装置は一般の蛍光灯、PC、電話等に電力を供給するものではない。停電と同時にこれらの機器は使用できなくなる。
10	機械警備	①停電時は 30 分程度、通常通り作動する。(単独バッテリー内蔵) ②ロック後、4 か所の電子錠はマスターキーで解錠できる。(協栄)
11	エレベータ	①地震時管制運転装置により、自動的に最寄階に停止する。 ②閉じ込めは、インターホンとカメラで遠隔操作により対応する。
12	A E D	①突然、心臓が停止した人に、電気ショックを与えて蘇生させる器具。 ②指示音声に従って、簡単に操作ができる。

(2) 館内待機・宿泊への対応設備

- ①大震災時は、帰宅より職場内待機・宿泊が、より現実的な選択肢であると認識させられた。
- ②地震発生時の館内待機場所は、2階に近いフロアから順に5階まで埋めていく。
- ③余震がおさまり、多人数の待機、宿泊が長期化する場合は、6階～8階を含めて活用する
- ④宿泊は、カーペット敷の教室等を整理して活用する。*カーペット敷=(カ)

階	待機・宿泊場所	設備・特徴	収容人数	
			待機	宿泊
8階	スタジオ・ラウンジ	最上階で揺れが大きい。マット34枚。	100	
	図書室	図書が落下するため、危険。		
7階	研修室(カ)	プロジェクター1台。	80	25
	普通教室	合計8室。	240	
6階	視聴覚室	プロジェクター1台。	80	
	普通教室	合計8室。→旧ピアノ室(カ)	240	10
5階	介護実習室(カ)	和室。ベッド8台。タオルケット20枚。		15
	入浴実習室	流し台。車椅子10台。ストレッチャー2台。		
	家政実習室	ガス付調理台7台。炊飯器7個。		
	普通教室	合計5室。	150	
4階	ラウンジ	自動販売機2台(飲物)。		
	基礎医学実習室	治療台8台。流し台。		5
	実技演習室	治療台16台。流し台。		15
	施術室	ベッド2台。洗面台1台。		
	普通教室	合計4室。	120	
3階	ラウンジ	自動販売機3台(飲物)。		
	病院・薬店演習室(カ)		40	10
	普通教室	合計1室。(診療情報管理演習室)	30	
	保健室	ベッド4台。救急箱。担架。		
2階	ロッカールーム	廊下前にスペースあり。		
	学務課・広報室	災害対策本部設置。テレビ1台。		
	教員室・講師室(カ)	テレビ1台。非常放送設備。	40	15
1階	ラウンジ	テーブル14台。大型テレビ1台。自動販売機(飲物3、スナック1)。売店。洗面台1台。	40	
	法人本部	テレビ1台。打合せ室。		
	CSC(カ)		30	15
	会議室(カ)	打合せ用14席。		
	小会議室(カ)	打合せ用8席。応接4席。		
	普通教室	合計2室。	60	
	玄関ロビー	AED1台。		
地階	プロムナード	原則として、喫煙スペースも含めて閉鎖。		
	警備室	非常放送設備。火災操作盤。電流・受水槽警報盤。		
	室内倉庫	飲料水、乾パン、毛布、ヘルメット等		
	駐車場倉庫	アウトプット商品。		
	駐車場	屋内6台、屋外2台。(エステート除く)		
合計			1,250	110

(3) 状況別基本対応

①全館停電時への対応

項目	発生する状況	対応方法など
建物全体		
照明（非常灯・誘導灯）		
電話		
コンピュータ		
トイレ・水道		

②近隣避難者等への対応

項目	発生する状況
基本方針	①学園関係者への対応を最優先とする。 ②外部者へは、学園の対応体制を勧告して判断する。 ③停電時は対応できない。
一時避難 （学園判断）	①通勤、通学途上者等が一時避難、休憩場所として入館を希望した場合、1階ロビー、CSC程度であれば許可する。
長期避難 （学園判断）	①被災した近隣住民、帰宅困難者等が宿泊、長期避難場所として希望した場合、原則、受け入れない。特に在校生がいる場合は困難である。
長期避難 （行政依頼）	①行政から避難場所として、協力依頼を受けた場合、学園の対応能力や責任範囲などを確認し、対応を決定する。
トイレ・電話	①原則として、1階の公衆電話、事務所電話、トイレの使用を許可する。
食糧・飲料水	①学園分しか備蓄がなく、原則として、提供できない。

③警備・設備担当者の対応（協栄）

項目	勤務状況	対応方法など
月～金の平日	警備勤務 設備勤務 清掃勤務 【セコム】	①停電、エレベータ、セコム、備品転倒等へ対応する。 ②学生誘導は教職員が対応する。
土・日・指定日 ①見学会、入試 検定試験等	警備勤務 設備・清掃 【セコム】	①教職員、外部利用者、警備員の3者で在館者状況を確認しておく。 ②教職員が全体の避難誘導をする。 ③借主が、各団体の避難誘導をする。 ④警備員が玄関を中心に安全を確保する。
②貸し教室	貸出時間 9:00～17:30 【セコム】	①借主が、各団体の避難誘導をする。 ②警備員が玄関を中心に安全を確保する。 *学園の常駐体制を検討する。

各種対応チェックリスト

(1) 教職員・学生対応、待機者数、休校期間

役職等	帰宅指示	学内待機	自宅待機	学外避難	その他
理事長・専務理事					
学長・校長・副校長					
事務局長・次長					
学科長・課長・室長					
一般教職員					
兼任講師					
学生①()					
学生②()					
学生③()					
学生④()					
学生⑤()					
その他()					

避難先施設		待機者数	状況など
8階	スタジオ		
7階	研修室(カ)		
	普通教室		
6階	視聴覚室		
	普通教室		
5階	介護実習室(カ)		
	普通教室		
	ラウンジ		
4階	基礎医学実習室		
	実技演習室		
	施術室		
	普通教室		
	ラウンジ		
3階	病院・薬店演習室(カ)		
	普通教室		
	保健室		
	ロッカールーム		
2階	教員室・講師室(カ)		
	ラウンジ		
1階	C S C(カ)		
	普通教室		
	会議室(カ)		
	小会議室(カ)		
	玄関ロビー		

	休校期間	授業再開日時	兼任講師連絡等
専門学校	年 月 日 () ～ 年 月 日 ()	年 月 日 () 限目 (:) より授業を再開する。	
短期大学	年 月 日 () ～ 年 月 日 ()	年 月 日 () 限目 (:) より授業を再開する。	

(注) 学校・学生間の安否確認、連絡方法は、学校部門において具体的な手順を定めておくこと。

(2) 災害用装備・備蓄品一覧

①災害に備え、次の装備、備蓄品を備えておく。

②毎年1回（防災訓練の日等）、数量の補充、交換し、機器の可動確認を行う。

備蓄品・装備品	規格	数量	設置場所	活用状況
マット	エアロビクス用	34枚	スタジオ（教具）	
タオルケット		20枚	介護実習室（教具）	
バスタオル		50枚	介護実習室（教具）	
車椅子		10台	入浴実習室（教具）	
ストレッチャー		2台	入浴実習室（教具）	
担架		2台	保健室	
AED		1基	1階入口奥	
ヘルメット		21個	事務室等	
懐中電灯	大型10、ランタン型10	20個	事務室等	
ロープ	20m	1本	地下ポンプ室	
消火器	粉末ABC・強化液ABC	34本	各フロア	
屋内消火栓		17基	各フロア	

※上記以外の災害時備蓄品・防災用品等は、次に記載する。

◆災害用装備・備蓄品一覧(2013. 3. 30 現在)

・品名別一覧

No.	品名	数量	備蓄場所
1	飲料水(500ml)	408	3階倉庫
1	飲料水(500ml)	312	5階倉庫
1	飲料水(500ml)	300	地下倉庫
2	保存食(1袋85g)	360	3階倉庫
2	保存食(1袋85g)	360	5階倉庫
2	保存食(1袋85g)	300	地下倉庫
3	毛布	10	3階倉庫
3	毛布	10	5階倉庫
3	毛布	10	地下倉庫
4	レスキューシート	400	3階倉庫
4	レスキューシート	300	5階倉庫
4	レスキューシート	300	地下倉庫
5	救急医療品セット	1	1階本部
5	救急医療品セット	1	2階学務課
5	救急医療品セット	1	3階保健室
6	携帯ラジオ	1	1階本部
6	携帯ラジオ	2	2階学務課
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	1階本部
7	発電ダイナモ付ラジオ	2	2階学務課
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	3階倉庫
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	5階倉庫
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	地下倉庫
8	軍手	48	3階倉庫
8	軍手	36	5階倉庫
8	軍手	36	地下倉庫
9	ブルーシート	6	3階倉庫
9	ブルーシート	6	5階倉庫
9	ブルーシート	8	地下倉庫
10	バケツ	20	地下倉庫
11	ローソク	24	3階倉庫
11	ローソク	18	5階倉庫
11	ローソク	12	地下倉庫
12	チャッカマン	12	2階学務課
13	ハンドマイク	2	2階学務課
14	トランシーバー	5	2階学務課
15	ウォータータンク	20	地下倉庫

・備蓄場所別一覧

No.	品名	数量	備蓄場所
5	救急医療品セット	1	1階本部
6	携帯ラジオ	1	1階本部
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	1階本部
5	救急医療品セット	1	2階学務課
6	携帯ラジオ	2	2階学務課
7	発電ダイナモ付ラジオ	2	2階学務課
12	チャッカマン	12	2階学務課
13	ハンドマイク	2	2階学務課
14	トランシーバー	5	2階学務課
1	飲料水(500ml)	408	3階倉庫
2	保存食(1袋85g)	360	3階倉庫
3	毛布	10	3階倉庫
4	レスキューシート	400	3階倉庫
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	3階倉庫
8	軍手	48	3階倉庫
9	ブルーシート	6	3階倉庫
11	ローソク	24	3階倉庫
5	救急医療品セット	1	3階保健室
1	飲料水(500ml)	312	5階倉庫
2	保存食(1袋85g)	360	5階倉庫
3	毛布	10	5階倉庫
4	レスキューシート	300	5階倉庫
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	5階倉庫
8	軍手	36	5階倉庫
9	ブルーシート	6	5階倉庫
11	ローソク	18	5階倉庫
1	飲料水(500ml)	300	地下倉庫
2	保存食(1袋85g)	300	地下倉庫
3	毛布	10	地下倉庫
4	レスキューシート	300	地下倉庫
7	発電ダイナモ付ラジオ	1	地下倉庫
8	軍手	36	地下倉庫
9	ブルーシート	8	地下倉庫
10	バケツ	20	地下倉庫
11	ローソク	12	地下倉庫
15	ウォータータンク	20	地下倉庫

(3) 首都圏交通機関の運行状況

J R	停止	間引き	平常	備考（状況の変化など）
山手線				
埼京線				
中央線				
総武線				
青梅線				
川越線				
武蔵野線				
八高線				
五日市線				
京浜東北線				
宇都宮線				
高崎線				
東海道線				
横須賀線				
横浜線				
南武線				
内房線				
外房線				
京葉線				
常磐線				
成田線				
東海道新幹線				
東北新幹線				
上越新幹線				
長野新幹線				

私 鉄	停止	間引き	平常	備考（状況の変化など）
西武新宿線				
西武池袋線				
西武拝島線				
西武秩父線				
東武東上線				
京王線				
京王井の頭線				
京王相模原線				
小田急線				
小田急多摩線				
相鉄線				
多摩モノレール				
日暮里・舎人ライナー				
東武伊勢崎線				
東武野田線				
東急東横線				

東急田園都市線				
京成線				
新京成線				
京浜急行線				
つくばエクスプレス				
東葉高速鉄道				

地下鉄・都電	停止	間引き	平常	備考（状況の変化など）
東西線				
銀座線				
丸の内線				
日比谷線				
千代田線				
有楽町線				
副都心線				
半蔵門線				
南北線				
浅草線（都営）				
三田線（都営）				
新宿線（都営）				
大江戸線（都営）				
荒川線（都電）				

道路	通行止	一部規制	平常	備考（状況の変化など）
一般道（山手線内）				
一般道（山手線外）				
高速道（首都高）				
首都高速道路				
東名高速道路				
中央自動車道				
関越自動車道				
東北自動車道				

（参考）東日本大震災後の運転再開日時 <平成 23 年 3 月 11 日（金） 14 時 46 分発生>

路線名（区間）	再開日時		路線名（区間）	再開日時	
山手線（大崎－大崎）	3/12	8:00	小田急線（新宿－鶴川）	3/12	0:00
埼京線（大崎－大宮）	3/12	7:00	東急東横線（渋谷－横浜）	3/11	22:30
中央線（東京－国立）	3/12	7:36	東急田園都市線（渋谷－長津田）	3/11	22:30
武蔵野線（府中本町－南船橋）	3/12	10:36	東西線（高田馬場－妙典）	3/11	23:08
西武新宿線（西武新宿－所沢）	3/11	21:55	銀座線（浅草－渋谷）	3/11	20:40
西武池袋線（池袋－所沢）	3/11	21:55	丸の内線（池袋－荻窪）	3/11	23:00
東武東上線（池袋－ふじみ野）	3/12	5:54	有楽町線（池袋－和光市）	3/12	5:00
京王線（新宿－聖蹟桜ヶ丘）	3/11	22:10	大江戸線（都庁前－光が丘）	3/11	20:40

火災発生時の基本的対応と自衛消防組織

(1) 初動対応マニュアル

- ①火災発生時の基本的対応は次のとおりとする。
- ②防災訓練時は、訓練目的・想定に応じてマニュアルを作成する。

項 目	内 容	担当者
発 火 現場確認	①火災発見者は、最寄りの火災報知機ボタンを押す。 ②非常ベルが鳴った場合は、火災表示板を確認する。 ③火災現場確認後、専門学校事務局長へ報告する。 *動ける者が2～3名で素早く行動する。	火災発見者 連絡通報班
初期消火	①消火器を持ち、現場で初期消火活動をする。 ②火勢が大きい場合は、初期消火を中止する。	消火班
学内連絡	①法人本部事務局長へ連絡 ②放送担当者に非常全館放送を指示する。	専門学校事務局長
非常用放送①	①「〇階〇〇教室で火災が発生しました。学生は貴重 品を持ち、教職員の指示があるまで、そのまま待機 してください。教職員は任務についてください。」	放送担当者 (2回繰り返す)
各担当者は任務 を開始	①放送後、2分以内に各担当の持ち場につき、任務を 開始する。	各担当
119番通報	①「火事です。こちらは、豊島区高田3-11-17 早稲 田速記医療福祉専門学校です。高田馬場駅近くの8 階建てです。 だいたい、〇階で火事が発生しました。現在も燃え ています。すぐに避難を開始します。」	専門学校事務局長
非常用放送②	①「教職員は、非常階段を使って避難・誘導を開始し てください。」	放送担当者 (2回繰り返す)
避難誘導	①防火扉を閉める。 ②学生を避難誘導する。エレベータは使用しない。 ③各教室、トイレ等の避難状況を確認する。 ④各授業担当者は本部に避難人数を報告する。 ⑤防火扉係は、各フロアの避難終了を報告する。	避難誘導班
学生避難	①放送、避難誘導担当者の指示に従い、出席簿、貴重 品を持ち、授業担当学生の避難誘導を行う ②避難後、本部の地区隊長に報告を入れる	各授業担当
各種対策	①対策本部設置、情報収集、命令伝達、消防署対応	対策本部
	②火気使用器具の使用停止、非常電源の確保、コン ピュータの防護	防護安全班
	③救護所を設置、負傷者の応急処置、氏名掌握	救護班
	④非常持出物の搬出・管理	非常持出班
終了措置	①各班の任務状況確認 ②避難解除、授業再開準備 ③負傷者、施設復旧、消防署、行政等への対処	対策本部

(2) 防火担当責任者及び火元責任者

- ① 日常の火災予防及び地震時の出火防止を図るため、地区ごとに防火担当責任者を、各部屋に火元責任者を置く。
- ② 防火担当責任者は、防火管理者を補佐するとともに、火元責任者に対する指導を行う。
- ③ 火元責任者は、防火担当責任者を補佐するとともに、担当区域内の建築物、火気使用設備器具、電気設備器具、消防用設備器具等について日常の維持管理、安全確認を行う。
- ④ なお、防火管理委員会は災害対策本部、自衛消防隊は防災隊と同じメンバーとする。

【NKビル】防火管理者

【地階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
電気室	
発電室	
空調室	
ポンプ室	
警備室	
耐火書庫	
室内倉庫（2室）	
トイレ	
駐車場	
駐車場倉庫（2室）	
ごみ置場	
その他（含屋外）	

【1階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
玄関ロビー	
C S C	
会議室	
応接室	
コンピュータ室	
理事長室	
101教室	
102教室	
法人本部	
給湯室	
トイレ	
プロムナード	
空調室・その他	

【2階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
学生ラウンジ・売店	
入学相談室	
学務課	
教員室・講師室	
給湯室	
トイレ	
空調室・その他	

【3階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
病院・薬店演習室	
302教室	
ロッカールーム	
掲示ルーム	
第1パソコン室	
医療コンピュータ室	
診療情報管理演習室	
保健室	
印刷室	
トイレ	
空調室・その他	

【4階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
基礎医学実習室	
実技演習室	
施術室	
403教室	
404教室	
405教室	
406教室	
第2パソコン室	
ラウンジ	
倉庫	
トイレ	
空調室・その他	

【5階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
介護実習室	
入浴実習室	
家政実習室	
503教室	
504教室	
505教室	
506教室	
509教室	
ラウンジ	
倉庫	
トイレ	
空調室・その他	

【6階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
601教室	
602教室	
603教室	
604教室	
605教室	
606教室	
608教室	
609教室	
視聴覚室	
トイレ	
空調室・その他	

【7階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
701教室	
702教室	
703教室	
704教室	
705教室	
706教室	
707教室	
708教室	
研修室	
トイレ	
事務室	
空調室・その他	

【8階】防火担当責任者	
施設名	火元責任者
スタジオ・ラウンジ	
女子更衣室	
男子更衣室	
図書室・書庫	
トイレ	
空調室・その他	
機械室（塔屋）	

【KGビル】防火管理者	
施設名	火元責任者
1階 事務室	
2階 事務室	
3階 事務室	
4階 事務室	

報道機関対応マニュアル

- ①本校に報道機関から取材申込があった場合、次のように対応する。
 ②本校が単独で出火または被災した場合、周辺地域が被災し、本校が避難場所等として協力する場合、本校学生によるボランティア活動が注目された場合などが想定される。

項 目	具体的な実施内容
1 積極的な情報の公開	①個人情報や人権等に最大限配慮しながら、正確な情報と事実を積極的に公開する。 ②事実を隠蔽しているのではないか等の誤解を生じさせないように、拒否的な態度（一方的に「取材に応じられない」等）はしない。 ③公開できない情報や教育的配慮により取材に応じられないときは、その必要性を十分説明し、理解を求める。
2 誠意ある対応	①報道機関を通じ、学校の対応や今後の方針等も広く保護者や地域に伝えられるため、学校と報道機関との信頼・協力関係が保たれるよう、取材には誠意をもって対応する。
3 公平な対応	①報道機関に情報を提供する場合は、どの報道機関に対しても情報や対応に差異が生じないように公平に行う。
4 窓口の一本化	①説明は、責任者が窓口となり対応する。責任者が不在のときは、その旨を説明し、でき得る限り責任者から連絡するようにする。 ②報道対応にあたる教職員間で意思の疎通を図り、情報を共有する。
5 報道機関への要請	①取材が一度に殺到し、現場の混乱が予想される場合は、正常な学校運営を維持するため、適切な取材方法等を要請する。 （例：校地内への立入り可能場所、学生等に対する取材の可否、取材場所及び時間、記者会見の予定）
6 取材者の確認	①報道機関から取材があった際は、社名・氏名・電話番号・取材内容等を必ず記録する。
7 取材意図の確認及び準備	①あらかじめ取材意図等を確認し、予想質問に対する回答を作成等する等、的確な回答ができるよう準備する。 ②事実関係が正確に把握できているか、推測の部分はないか、人権やプライバシー等の配慮はできているか等の事項に留意する。
8 明確な回答	①把握していないことや不明なことは、その旨を明確に伝え、誤解につながる返答はしない。 ②決まっていないこと、答えられないことは曖昧に返答せず、その理由を説明し、対応できる時期を示す。 ③万が一間違っって説明したことが判明したときは、直ちに取材者に訂正を申し出る。
9 行政機関等との連携	①事前に文部科学省、東京都、豊島区、警察等と連携を図るとともに、記者会見を開く際の留意事項等についての助言等、支援を要請する。
10 記者会見	①取材が殺到する場合は、学校運営が混乱しないよう時期や場所等を決め、記者会見を行う。 ②取材が長期化する場合は、記者会見を定例化することも考える。

参考資料

(1) 震度と人の体感、被害の状況（気象庁HPより一部抜粋）

震度	人の体感	家具、建物等の状態
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。電線が大きく揺れる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。
5強	大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。固定していない家具が倒れることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7		固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。

(2) 風の強さと吹き方（気象庁HPより一部抜粋）

平均風速(秒速)	人への影響	樹木・建造物の被害
10m～14m (時速～50km)	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。
15m～19m (時速～70km)	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。	小枝が折れる。 ビニールハウスが壊れ始める。
20m～24m (時速～90km)	しっかりと身体を確保しないと転倒する。	鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
25m～29m (時速～110km)	立ってられない。 屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れ始める。ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める。
30m～ (時速 110km～)	同上	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

*表は10分間の平均風速。瞬間風速は、平均風速の1.5倍から3倍以上になることがある。

(3) 災害用伝言ダイヤル（NTT東日本HPより一部抜粋）

災害発生時に稼働する声の伝言板。音声ガイダンスに従って操作する。
①「171」をダイヤルする。
②ガイダンスにしたがい録音は「1」、再生は「2」、暗証番号利用の録音は「3」と4ケタの暗証番号、暗証番号利用の再生は「4」と4ケタの暗証番号をダイヤルする。
③連絡先(被災地)の電話番号を市外局番からダイヤルする。(固定電話)
④ガイダンスにしたがい<30秒以内で録音> または <再生> する。

施設案内図

8階	スタジオ・ラウンジ		階段	エレベーター	図書室	
			女子更衣室	男子更衣室		
7階	707	708	階段	エレベーター	研修室	
	701	702	703	704	705	706
6階	視聴覚室		階段	エレベーター	608	609
	601	602	603	604	605	606
5階	入浴実習室	家政実習室	階段	エレベーター	ラウンジ	509
	介護実習室		503	504	505	506
4階	実技演習室	施術室	階段	エレベーター	ラウンジ	第2パソコン室
	基礎医学実習室		403	404	405	406
3階	医療コンピュータ室		階段	エレベーター	保健室	診療情報管理 演習室
	病院・薬店演習室	302	ロッカールーム A	ロッカールーム B	掲示 ルーム	第1パソコン室
2階	ロビー	売店	階段	エレベーター	印刷室	教員室・講師室
			入学相談 コーナー	入学相談室・学務課		
1階	キャリアサポートセンター		階段	エレベーター		
	玄関ロビー	会議室	応接室	コンピュータ室	理事長室	事務室

震災時 避難場所略図

- ①震災時の避難場所は「学習院大学」（広域避難場所）とする。
- ②避難は災害対策本部の指示により開始するものとし、勝手な行動をとってはならない。
- ③全員隊列を組み、誘導員の指示に従って、整然と行動する。
- ④避難には、車輛等を使用せず、全員徒歩とする。
- ⑤避難場所に到着後、直ちに人員点呼をとり、災害対策本部に報告する。



火災時 避難場所略図

- ①火災時の避難場所は、「高田第三公園」を第1避難場所、「清水川橋公園」を第2避難場所とする。
- ②避難方法は、前ページの震災時と同様とする。



【改訂の記録】

- 平成 24 年 4 月 1 日改訂
[改訂内容]・人事異動等に伴い災害対策本部担当者・防火担当責任者を一部変更した。
 - ・災害用装備・備蓄品一覧を改訂した。
- 平成 25 年 4 月 1 日改訂
[改訂内容]・定年等による退職、新規入職に伴い火元責任者を一部変更した。

地震・火災対応マニュアル（高田馬場編）

発行日：平成 23 年 10 月 1 日

発行者：学校法人川口学園 災害対策本部

●教職員の電話番号掲載について

緊急時の業務連絡に限定した学内教職員間の相互利用は、個人情報保護法の第三者提供には該当せず、許容されています。なお、目的外の私的利用は固く禁止します。

●マニュアルの取扱いについて

機械設備機能、警備状況等、学園の保安情報が記載されています。当人限りとし、コピー、転載、部外者への開示を禁止します。退職の際は学園に返却してください。

早稲田速記医療福祉専門学校	〒171-8543 東京都豊島区高田 3-11-17 (TEL) 03-3208-8461 (FAX) 03-3209-6454
埼玉女子短期大学	〒350-1227 埼玉県日高市女影 1616 (TEL) 042-986-1616 (FAX) 042-986-1518